**2016年3月10日 詩編を読もう：力に満ちて立ち上がる (詩編20編)**

四旬節中もあと、2週間と少しになった。最後の1週間は聖週間、英語ではHoly Weekと呼ばれる。　今週の詩編を読もうは、聖書日課では来週の14日から16日に与えられている詩編箇所、20編をとりあげたい。　各自で読み、また、自分で聞き、いつものように、気になる言葉、あるいはインパクトのあった言葉や節は何かを挙げる。次に、詩編の作者の気持ちになってどのようなことを詠っているか、考える。そして神は、今の私たちに何を語っているのか、思いを巡らせよう。

詩編20編

1:【指揮者によって。賛歌。ダビデの詩。】

2:苦難の日に主があなたに答え／ヤコブの神の御名があなたを高く上げ

3:聖所から助けを遣わし／シオンからあなたを支えてくださるように。

4:あなたの供え物をことごとく心に留め／あなたのいけにえを快く受け入れ〔セラ

5:あなたの心の願いをかなえ／あなたの計らいを実現させてくださるように。

6:我らがあなたの勝利に喜びの声をあげ／我らの神の御名によって／旗を掲げることができるように。主が、あなたの求めるところを／すべて実現させてくださるように。

7:今、わたしは知った／主は油注がれた方に勝利を授け／聖なる天から彼に答えて／右の御手による救いの力を示されることを。

8:戦車を誇る者もあり、馬を誇る者もあるが／我らは、我らの神、主の御名を唱える。

9:彼らは力を失って倒れるが／我らは力に満ちて立ち上がる。

10:主よ、王に勝利を与え／呼び求める我らに答えてください。

インパクトのあった言葉としては、「我らは力に満ちて立ち上がる。」

詩編作者の気持ちになって、与えられた詩編を振り返るが、詩編20編は昨年5月にもとりあげており、その時、書いたことを、再び記述したい。　1節にはダビデの詩となっているが、おそらくダビデ王にしたがっていたイスラエルの民のための礼拝で詠う賛歌なのだと思う。2節以降で「あなた」となっているところは「ダビデ」におきかえても良いのだろう。2－4節では、苦難を経験しているダビデとその民だが、ダビデが支えられ、ダビデの神への供え物が受け入れられますようにと祈る。セラとなっているので、休止符か間奏が入る。そして5節にはいっても、祈りは6節まで続く。ダビデの願い、計画が実現するように。ダビデの勝利によって私たちは喜びの声をあげ、神の御名によって、勝利の旗を掲げることができるように。主がダビデの求めることをすべて実現してください。7節で「今、私は知った」と詠いはじめ、曲想はガラッと変わるようだ。主は油注がれたダビデに勝利を与え、救いの力を示される。戦力を誇るものがあるが、ダビデの民である我らは、主の御名を誇りたたえる。戦力を誇るものは倒れ、我らは主の力に満ちて、立ち上がることができる。10節では、再び、祈りの詩に戻り、ダビデに勝利を与え、呼び求めている我らに答えてください。

さて、この詩編の言葉を通し、主なる神は、今日、私たちに何を語りかけているのか考えたい。受難節終盤に入ってくる中で、とくに再来週、Holy Weekはイエスが十字架に架かることを覚える。ユダヤの律法学者からの策略や、ローマの高官からの裁判を受けることを想像する。　その中で、この詩編20編を読むと、弟子以外で、イエスと本当に身近にいた、マルタ、マリア、ラザロ等が、ベタニアでこの詩編20編を読み歌っているように思えてきた。　2節から6節にある「あなた」とはイエスに置き換えて読んで、それは、とてつもない苦難を強いられることになるイエスについて、神がイエスの祈りを聞き、高く上げ、助けを遣わし、支えられるように。　イエス自身の供え物を、神が受け入れ、イエスの思いを実現してくださるように。　イエスの勝利に、われらが喜び、神のみ名によって、旗を掲げられるように。　そして、7節から9節は、復活という事実により、イエスを信じる者が、力に満ちて立ち上がることを歌っているようにも思えてくる。

我々の日常生活においても、イエスの受難、死、復活を覚える時、どんな困難を体験しようが、力に満ちて、立ち上がることができる。　アーメン

安達均